

- 問1 日本列島の主要な地域を、九州北部、大阪付近、関東の内陸部、四国南東部の4地点に分けたとき、日本最大の前方後円墳である大仙古墳（仁徳天皇陵古墳）が位置する場所として最も適切なものはどれか。（2020年 三重県公立入試 類似）
1. 四国南東部
 2. 大阪付近
 3. 関東の内陸部
 4. 九州北部
- 問2 古墳時代における渡来人の移動と技術伝来が、当時の日本列島の社会に与えた影響について述べた文章として、最も適切なものはどれですか。（2025年 岩手県公立入試 類似）
1. 全国に国分寺や国分尼寺が建てられ、仏教を中心とした国家体制が完成した。
 2. 青銅器と鉄器が同時に伝わり、金属器を使った道具の製造が初めて行われた。
 3. 大陸からの技術移転により、日本列島で初めて米作り（水稲耕作）が始まった。
 4. 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。
- 問3 古代の日本と朝鮮半島の国々との関係について、百済が大和政権に与えた影響を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 熊本県公立入試 類似）
1. 唐と結んで、朝鮮半島を初めて統一するための軍事的な支援を日本に求めた
 2. 大和政権と結びつき、仏教や儒教などの大陸文化を伝える窓口となった
 3. 日本に鉄資源を供給することを主な目的として、九州北部に軍事拠点を置いた
 4. 大和政権に対して、魏志倭人伝に記されたような金印を授与して冊封関係を結んだ
- 問4 5世紀ごろに大和政権の政治的影響力が日本各地に及んだことを示す、近畿地方を起点に全国へ普及した円形と方形を組み合わせた形状の古墳を何と呼ぶか。（2016年 神奈川県公立入試 類似）
1. 前方後円墳
 2. 方墳
 3. 装飾古墳
 4. 円墳
- 問5 日本の関東地方、現在の埼玉県に位置する前方後円墳からは、115文字の銘文が刻まれた金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）が出土しています。この鉄剣に記された「ワカタケル大王」という名は、当時のヤマト政権の首長を指すとされています。この鉄剣が出土した古墳の名称として正しいものを選んでください。（2016年 三重県公立入試 類似）
1. 大仙陵古墳
 2. 稲荷山古墳
 3. 江田船山古墳
 4. 箸墓古墳
- 問6 世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群には、5世紀頃に造られた日本最大の前方後円墳である大仙古墳が含まれている。このような巨大な古墳が築かれた時代の外交の特徴として、適切なものはどれか。（2020年 香川県公立入試 類似）
1. 中国の北朝へ使者を送り、仏教を公式に伝えるよう要請した。
 2. 唐へ遣唐使を派遣し、律令に基づく中央集権的な国家体制を導入した。
 3. 元（モンゴル）からの服属要求を拒否し、九州沿岸の防備を固めた。
 4. 中国の南朝へ使者を送り、自らの地位を認めてもらう活動を行った。
- 問7 5世紀頃、大和政権の王（倭の五王）が中国の南朝へ繰り返し使者を送った主な目的として、最も適切な説明はどれか。（2020年 香川県公立入試 類似）
1. 唐の勢力拡大に対抗するため、朝鮮半島の百済や新羅と結んで軍事同盟を強化するため。
 2. 隋に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して中国の進んだ律令制度を学ぶため。
 3. 中国の北朝から公式に仏教を取り入れることで、鎮護国家の思想に基づいた国づくりを行うため。
 4. 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権を認めさせ、鉄資源の確保などの面で他国より優位に立つため。
- 問8 5世紀頃、大和政権は近畿地方から遠く離れた地域まで勢力を拡大しました。各地の有力者の墓（古墳）から、当時の王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀が発見されている事実は、当時の政治体制についてどのようなことを示していますか。その説明として最も適切なものを選びなさい。（2017年 愛知県公立入試 類似）
1. 地方の有力者が、大和政権を介さず独自に大陸と外交を行っていたこと
 2. 仏教の伝来によって、全国の有力者が同じ信仰を持つようになったこと
 3. 征夷大將軍が派遣され、東北地方まで完全に平定されたこと
 4. 大和政権の権力が、九州から関東に及ぶ広い地域の有力者に及んでいたこと
- 問9 大阪府堺市に位置する大山古墳（仁徳天皇陵）について、その特徴を地形図から読み取った場合の説明として最も適切なものはどれですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）
1. 正方形の墳丘が三重の石垣によって囲まれ、その中心部に巨大な石室が露出している。
 2. 円形の墳丘が等高線によって示され、周囲には濠がなく、標高の高い山地の中に独立して築造されている。
 3. 円形の後円部と方形の前方部を組み合わせた鍵穴のような形状の墳丘が、三重の濠に囲まれて配置されている。
 4. 長方形の墳丘が二重の濠に囲まれ、周囲に陪塚と呼ばれる小規模な円墳が直線状に並んでいる。
- 問10 古墳時代の日本（倭）が朝鮮半島や中国大陸の諸王朝と活発に交流していたことを示す証拠について、群馬県の綿貫観音山古墳などの出土品から読み取れる共通点として最も適切なものはどれですか。（2021年 群馬県公立入試 類似）
1. 縄文時代以来の伝統である大型の磨製石斧や、日本列島固有の黒曜石製品が大量に出土する点
 2. 江戸時代の鎖国政策の影響により、大陸由来の文物が一切見られず、日本独自の土器のみが発達している点
 3. 朝鮮半島の高句麗や百済、新羅、加耶などの地域と共通する、銅製水瓶や馬具などの文物が確認される点
 4. 遣隋使が派遣されるまで大陸との交流は完全に途絶えており、仏教に関する文物のみが特例として見られる点
- 問11 大仙陵古墳（仁徳天皇陵古墳）のような巨大な古墳が築かれた背景や、その特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2020年 東京都公立入試 類似）
1. 古墳の形状は、日本独自の形式である円墳が採用され、大陸の影響を一切排除して造られた。
 2. 古墳の表面には、仏教の影響を受けた装飾として、寺院から伝わった瓦が並べられていた。
 3. 墳丘の周囲には三重の堀が巡らされており、王の強大な権力を誇示する目的があったと考えられる。
 4. 死者を弔うために、土で人や動物の形を作って焼き上げた土偶が墳丘の周囲に並べられた。
- 問12 仏教が伝来し寺院が建立されるようになる以前の時代、各地の有力者が自らの権威を示すために築いた、土を高く盛り上げた巨大な墓を何といいますか。（2022年 岡山県公立入試 類似）
1. 都
 2. 貝塚
 3. 古墳
 4. 環濠集落
- 問13 4世紀末から5世紀の山口県の古墳から出土した銅鏡の記述など、瀬戸内海の航路の要所に位置する地域から王権に関連する品々が見つかることがあります。この事実から推測される、当時のヤマト王権の地方支配のあり方として正しいものはどれですか。（2024年 山口県公立入試 類似）
1. 遣隋使を派遣するための寄港地を確保するため、山口県周辺を王権の直轄地とした
 2. 邪馬台国の女王卑弥呼が中国から受け取った鏡を、瀬戸内海の豪族に再分配した
 3. 大陸から伝来した青銅器の製造技術を、農業振興のために全国の農民へ普及させた
 4. 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした

答え合わせ・解説

問1	答え 2 大阪付近	大仙古墳（仁徳天皇陵古墳）は、大阪府堺市にある百舌鳥古墳群を構成する古墳の一つです。5世紀の日本において、近畿地方に拠点を置いたヤマト政権（大和朝廷）の大王が、各地の豪族を従えるほどの強大な権力を確立していたことを示す重要な史跡です。
問2	答え 4 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。	古墳時代に朝鮮半島から渡来人が移住したことで、須恵器の製造技術に加えて漢字、儒教、仏教、機織などの高度な文化や技術が伝わり、日本の技術や生活文化が飛躍的に発展しました。
問3	答え 2 大和政権と結びつき、仏教や儒教などの大陸文化を伝える窓口となった	百済は朝鮮半島における軍事的緊張の中で大和政権と結びつき、その見返りとして先進的な技術や文化を日本へ伝えました。特に6世紀の聖明王による仏教の伝来は、その後の飛鳥文化の発展につながる歴史的な転換点となりました。他の選択肢にある半島統一は新羅の役割であり、金印の授与は中国の王朝との関係です。
問4	答え 1 前方後円墳	前方後円墳は、円形と方形を連結させた日本独自の形状を持つ古墳です。5世紀にはその築造が最盛期を迎え、近畿地方から離れた地域でもこの形式が採用されたことは、各地の豪族が大和政権の支配体系に組み込まれていった過程を物語っています。
問5	答え 2 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、雄略天皇（大泊瀬幼武尊）を指すとされる「ワカタケル大王」の銘文が刻まれていました。これは、5世紀後半のヤマト政権の支配力が関東地方にまで及んでいたことを示す決定的な証拠となっています。熊本県の江田船山古墳から出土した鉄刀にも同様の名が見られ、支配の広がりを裏付けています。
問6	答え 4 中国の南朝へ使者を送り、自らの地位を認めもらう活動を行った。	大仙古墳に代表される巨大な前方後円墳が造られた5世紀は、大和政権の王（倭王）が自らの権威を内外に示すために、中国の南朝へ朝貢した時期と重なります。この時期の外交は、朝鮮半島での軍事的な立場を強化し、鉄器の材料となる鉄資源の供給源を確保することが大きな目的の一つでした。
問7	答え 4 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権を認めさせ、鉄資源の確保などの面で他国より優位に立つため。	5世紀の大和政権は、国内での支配力を強めるとともに、大陸から伝来する鉄資源を安定して確保しようとしていました。そのために中国の南朝（宋など）へ朝貢を行い、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権や政治的な地位を正式に認めさせることで、周辺諸国に対して有利な立場を得ようとした背景があります。
問8	答え 4 大和政権の権力が、九州から関東に及ぶ広い地域の有力者に及んでいたこと	大和政権は、軍事力や外交力を背景に地方の首長たちと主従関係を結び、自身の統治体制に組み込んでいきました。有力者の墓から出土した銘文入りの鉄剣などは、地方首長が大和政権に従う代わりに、その土地の支配権を保証されたという政治的な結びつきを証明するものです。これにより、当時の日本列島において広域的な政治連合が形成されていたことがわかります。
問9	答え 3 円形の後円部と方形の前方部を組み合わせた鍵穴のような形状の墳丘が、三重の濠に囲まれて配置されている。	古墳時代中期を代表する大山古墳（仁徳天皇陵）は、前方後円墳という日本独自の形式を持つ巨大な古墳です。地形図上では等高線によってその独特な「鍵穴型」が描かれ、さらに墳丘を保護するように三重の濠が巡らされていることが確認できます。また、周囲には「倍塚（ばいづか）」と呼ばれる、被葬者の親族や家臣を葬ったとされる小規模な古墳が点在しているのも、この地域の歴史的景観の大きな特徴です。
問10	答え 3 朝鮮半島の高句麗や百済、新羅、加耶などの地域と共通する、銅製水瓶や馬具などの文物が確認される点	古墳時代の日本列島は、地理的に近い朝鮮半島の高句麗・百済・新羅・加耶、および中国の南朝や北朝と活発な交流を持っていました。その具体的な証拠として、群馬県の綿貫観音山古墳をはじめとする各地の古墳から、大陸や半島の影響を強く受けた「銅製水瓶」や「馬具」などの文物が共通して出土しており、当時の国際的なネットワークの広がりを示しています。
問11	答え 3 墳丘の周囲には三重の堀が巡らされており、王の強大な権力を誇示する目的があったと考えられる。	古墳時代中期に造られた大仙陵古墳は、鍵穴のような形をした日本独自の「前方後円墳」であり、周囲には三重の堀が巡らされています。このような大規模な土木工事を伴う古墳の建設は、当時の大和政権の王が、膨大な労働力を動員できるほどの強い権力を持っていたことを視覚的に示す役割がありました。なお、古墳に並べられたのは埴輪であり、縄文時代の土偶とは区別されます。
問12	答え 3 古墳	古墳時代、各地の有力者（豪族）は土を高く盛り上げた巨大な「古墳」を築くことで、その勢力を誇示しました。しかし、飛鳥時代に仏教が伝来して寺院が建立されるようになると、有力者の権威を象徴する対象は古墳から寺院へと変化し、巨大な古墳は次第に造られなくなっていました。
問13	答え 4 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした	ヤマト王権が全国的な影響力を強めるためには、朝鮮半島や中国大陸との外交、あるいは国内の物資輸送に欠かせない海上交通路を掌握することが不可欠でした。山口県のように瀬戸内海沿岸の重要な地点を治める豪族に対し、権威の象徴である銅鏡を与えることで味方につけ、安定した航路の確保と地方への影響力行使を両立させていたと考えられます。なお、卑弥呼の時代は3世紀であり、この問題が扱う4～5世紀とは時代が異なります。